天王川公園にある明治24年(1891)
濃尾地震の記念碑(津島市)

天正13年(1586)天正地震により本堂などが
倒壊した記録が残る甚目寺(あま市)

つなみん

エキジョー

歴史地震記録に学ぶ 防災・減災ガイド 海部編

先人たちが伝えようとしたことに、
耳を傾けてみんかのぉ

減斎(げんさい)さん

昭和19年(1944)昭和東南海地震とその翌年の三河地震で、本堂、庫裡が倒壊した記録が残る頓教寺(愛西市)

昭和19年(1944)東南海地震や台風で
倒壊したとされる善光寺(飛島村)

明治24年(1891)の濃尾地震後に池から
引き揚げられた興善寺地蔵(弥富市)

天正13年(1586)の地震で大破したと
される蟹江城跡(蟹江町)

ゆらすん

愛知県

※このパンフレットは、市町村誌や体験談集など
地域に残る記録を参考にして作成したものです

エキジョー

減斎さん

つなみん

1

No	愛西市	碑史跡	エリア
1	安泉寺		A2
2	引接寺※		A1
3	頓教寺※		A2
4	西光寺		A1
5	法光寺		A2
6	東條町嘉江口付近		A2
7	見越町付近		A1
8	北川田町付近		A1
9	南川田町付近		A1

No	津島市	碑史跡	エリア
1	津島神社※		A1
2	天王川公園(震災記念碑)※	○	A1
3	成信坊※		A1
4	瑞泉寺		A1
5	正楽寺		A1
6	観音寺		A1
7	興禅寺		A1
8	中一色日光川堤		B2
9	八剱社		B1

2

No	弥富市	碑史跡	エリア
1	五ノ三前		A2
2	證玄寺		A2
3	五明輪中※		A2
4	金樹寺		A2
5	前ヶ須新田		A2
6	興善寺地蔵※	○	A2
7	川原欠新田		A2
8	弥勒寺		B2
9	六野新田		B3
10	鳥ヶ池新田		B2
11	上野新田		B3
12	鍋田神明社	△	B3
13	八穂新田(八穂地蔵)※	○	B3
14	大宝前(神戸)新田堤		B2
15	伊勢湾台風殉難之塔※	△	B3
16	鍋田干拓の新田		B3
17	押萩付近		B2

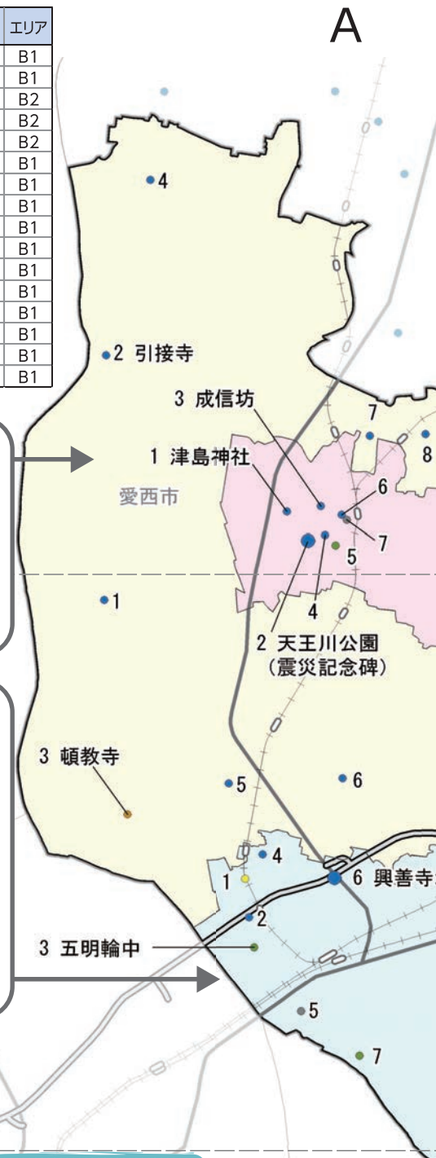
※：解説ページあり

○：地震に関係する碑・史跡
◎：地震・津波に関係する碑・史跡
△：高潮・波浪に関係する碑・史跡

No	あま市	碑史跡	エリア
1	蓮華寺		B1
2	篠田小学校		B1
3	河葉神社		B2
4	盛願寺		B2
5	伊福部神社		B2
6	正則小学校		B1
7	法性寺※		B1
8	石作尋常小学校		B1
9	甚目寺※		B1
10	日明寺		B1
11	唯願寺		B1
12	法界門		B1
13	光明寺		B1
14	泉龍寺		B1
15	正善寺		B1
16	實成寺		B1

愛西市では、建物被害、堤防・道路の陥没、地盤沈下・隆起、泥水噴出、道路・堤防の亀裂の記録があります。

弥富市では、建物被害、堤防・道路の陥没、地盤沈下噴砂の記録があります。地震後に、高潮被害・水害も受けています。



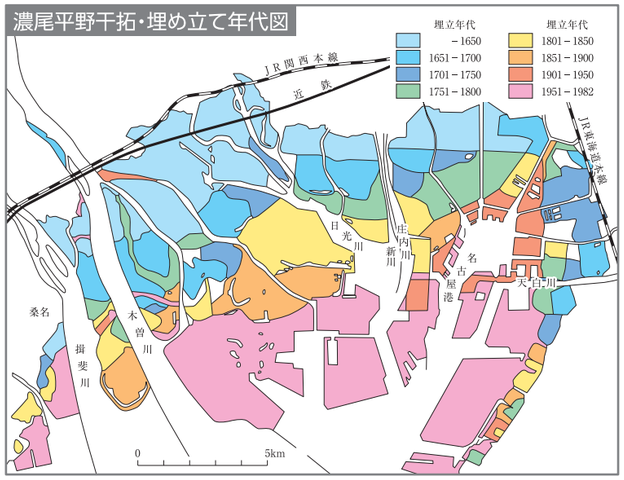
海部地域における干拓の変遷

濃尾平野は、木曽川などが排出してきた土砂の堆積により生まれてきたものです。

江戸時代に入って政情が安定すると、米の生産のため干拓が進み、陸域が更に拡大していきました(右図参照)。海部地区の干拓は、堤防を築造して、洲を締め切ったに等しいものであったので、干拓地は低湿地でした。

このような状態であったため、地震の際には地盤沈下や噴砂、地盤の変状が発生しやすく、また、水害にもあいやすかったと考えられています。濃尾平野の地盤沈下が進行するにつれ状況が悪化し、このため、一度水害が発生すると排水に時間がかかり、被災状態が長期化することになっています。

濃尾平野干拓・埋め立て年代図



※「最新名古屋地盤図」((社)土質工学会中部支部)を参考に作成

災害を今に伝える史跡など　津島市

津島市の被災状況

津島市では天正13年(1586)11月の地震で、田畑の陥没が起こり、翌年には木曽川の大洪水にあっています。嘉永7年(1854)安政東海・南海地震では、建物被害、新田での陥没が、明治24年(1891)濃尾地震では建物被害、火事、橋の損壊のほか、泥水・井戸水の噴出、地盤の亀裂が発生しています。

天王川公園(震災記念碑)　地図 A1

所在地:津島市宮川町
交　通:名鉄津島線「津島」より南西 約1.4km

この碑は、明治24年(1891)濃尾地震の惨害を記録するために、明治25年10月、天王川畔に南面した津島警察署前に建立されました。その後、現在の位置に移転しました。

碑表には、海東、海西二郡(津島を含む)における罹災の実情、堤防や学校の復旧、救済の様子などが、碑裏には、建碑資金の寄付者名が刻まれています。

津島神社　地図 A1

所在地:津島市神明町
交　通:名鉄尾西線「津島」より西 約1.1km

明治24年(1891)濃尾地震によって、津島神社の廻廊は傾き、社務所・宝庫は倒壊し、灯籠が壊れました。また安政元年(1854)安政伊賀地震では津島祭の最中に地震が発生し、津島神社の石灯籠が倒れたと伝えられています。

成信坊　地図 A1

所在地:津島市本町
交　通:名鉄尾西線「津島」より西 約600m

嘉永7年(1854)安政東海・南海地震によって太鼓堂玄関が倒れ、また明治24年(1891)濃尾地震によって全壊しています。

災害を今に伝える史跡など　愛西市

愛西市の被災状況

愛西市では、宝永4年(1707)宝永地震の際に、道路の陥没、建物被害が起こっています。明治24年(1891)濃尾地震では、建物被害、田畑や道路の隆起、地面・堤防の亀裂、泥水噴出、堤防の陥没が起こっています。昭和19年(1944)昭和東南海地震、昭和20年(1945)三河地震では、建物被害、堤防・護岸の亀裂・陥没、地盤沈下、泥水噴出が起こっています。

頓教寺　地図 A2

所在地:愛西市立田町船頭平
交　通:名鉄尾西線「五ノ三」より西 約2.5km

昭和19年(1944)昭和東南海地震で本堂が、昭和20年(1945)三河地震で庫裡が倒壊したとの記録があります。地震の際には、本堂や庫裡の建っていた地盤から泥と水が噴き上げ海と化すような状態であったと伝えられています。

引接寺　地図 A1

所在地:愛西市塩田町
交　通:愛西市巡回バス「塩田公民館前」より北西 約400m

文政2年(1819)の地震の際に、本堂等が損壊したとされています。明治24年(1891)濃尾地震では、本堂、庫裡等が倒壊しています。この地震と、木曽川の改修工事に伴い現在地に移転しています。(移転前の位置は現在地よりも約500m北)。

災害を今に伝える史跡など　弥富市

弥富市の被災状況

弥富市では、宝永4年(1707)宝永地震の際に堤防の陥没・崩壊が起こり、翌年から数年間水害を蒙っています。嘉永7年(1854)安政東海・南海地震では、堤防の陥没、浸水、田畑の沈下、翌年には高潮被害にあっています。明治24年(1891)濃尾地震、昭和19年(1944)昭和東南海地震等では建物被害、噴砂、道路陥没がありました。

五明輪中　地図 A2

所在地:弥富市五明町
交　通:JR関西本線「弥富」より西 約500m

宝永4年(1707)宝永地震の際に、堤防がことごとく崩れ、一面海になったと伝えられています。また、この翌年の宝永5年(1708)から正徳5年(1715)にかけて5度の高潮・高波による被害にあっています。

興善寺地蔵　地図 A2

所在地:弥富市荷之上町
交　通:JR関西本線「弥富」より北 約1.2km

興善寺は白頭(しらこべ)に建立された寺院ですが、天正2年(1574)の織田信長と一向宗門徒との戦いの際に焼失しています。このあたりは、天正13年(1586)の地震で陥没し、白頭池ができています。明治24年(1891)濃尾地震の後、村人がこの池を浚えた際に、2体の地蔵尊を探り当て、服部家と斉藤家が荷之上の墓地に安置されてきました。この地蔵尊は昭和51年(1976)に弥富市の文化財指定を受けており、以降、荷之上区によって管理され毎年3月に供養祭が営まれています。

八穂新田(八穂地蔵)　地図 B3

所在地:弥富市鍋田町
交　通:弥富市コミュニティバス「鍋田」より北 約250m

現在の鍋田新田の一部にあたる八穂新田は、江戸時代の末から干拓が行われましたが、水害により何度も破堤を繰り返し嘉永7年(1854)安政東海・南海地震と翌年の暴風雨により亡所となったとされています。20年後の明治8年(1875)にこの地で富島の漁師によって地蔵が引き揚げられ、約90年間、八穂新田の地蔵として富島で安置されてきましたが、伊勢湾台風後の昭和38年(1963)に、この地に移されました。この地蔵は、干拓を築き上げた先人の偉業の歴史を物語るものして、弥富市の文化財に指定されています。

○地震・津波関係　●宝永4年(1707)宝永地震　●昭和19年(1944)昭和東南海地震　●嘉永7年(1854)安政東海・南海地震　●昭和20年(1945)三河地震　●明治24年(1891)濃尾地震　●その他(年代不明を含む)　▲高潮、波浪関係

災害を今に伝える史跡など　あま市・大治町

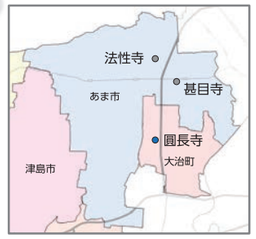
あま市の被災状況

あま市では、明治元年(1868)に入鹿池が決壊し、死体や流木が旧七宝町をよぎったとされています。明治24年(1891)濃尾地震では、建物被害、道路の亀裂、水の噴出がありました。明治29年(1896)には、大雨で浸水被害も受けています。昭和19年(1944)昭和東南海地震では、建物被害を受けたほか、地盤沈下したため自然排水が困難になっています。

大治町の被災状況

大治町では、明治24年(1891)濃尾地震の際に、建物の全壊・半壊等の被害、道路・田畑・宅地の亀裂、水・砂の噴出が多数あったことが、地元の方の備忘録として残っています。

なお、この備忘録には、明治24年12月には大雪、明治29年(1896)には大雨による浸水被害、堤防決壊の記載があります。



法性寺　地図 B1

所在地:あま市新居屋善左屋敷
交　通:名鉄津島線「七宝」より北東 約1km

法性寺は、天正13年(1586)天正地震の際に、本堂のほか周囲約300m内にあった二王門、大日堂、十王堂、弥勒堂、阿弥陀堂、毘沙門堂などもことごとく破壊したとされています。

甚目寺　地図 B1

所在地:あま市甚目寺東門前
交　通:名鉄津島線「甚目寺」より南西 約200m

甚目寺は、天治元年(1124)の地震の際に倒壊しています。天正13年(1586)天正地震でも本堂が倒壊しています。明治24年(1891)濃尾地震の際には、本堂をはじめ、釈迦堂、大日堂、阿弥陀堂、聖天堂、薬師堂などの諸堂が倒壊しています。また、この地震の際には、門前の商家もことごとく倒壊しています。

圓長寺　地図 B1

所在地:海部郡大治町西條
交　通:名鉄バス「西条」より北 約400m

圓長寺は、明治24年(1891)濃尾地震により倒壊しましたが、その古材によって、本堂、庫裡が再建されています。

災害を今に伝える史跡など　蟹江町

蟹江町の被災状況

蟹江町では天正13年(1586)天正地震で蟹江城が壊滅したと言われています。

嘉永7年(1854)安政東海・南海地震でも大被害を受けており、堤防の修復も十分にできていないところに、翌年には、大雨・高潮により水害を受け、被害を倍加させています。このような災害時には富裕者による救済があるのが通例ですが、富裕者にも被害があったため、救済がなかったことを代官所からの調べに対して報告しています。

明治24年(1891)濃尾地震では、三分の一以上の家が全壊・半壊の被害を受けています。

常楽寺　地図 B2

所在地:蟹江町須成
交　通:JR関西本線「蟹江」より北西 約800m

明治24年(1891)濃尾地震では、数百年を有した古刹本堂、客殿庫裡などがすべて倒壊しています。この後、政覚和尚と檀信徒により本堂、客殿、庫裡が再建されています。

蟹江城跡　地図 B2

所在地:海部郡蟹江町城
交　通:JR関西本線「蟹江」より南西 約800m

蟹江城は永享年間(1429～1441)に築城されましたが、天正13年(1586)天正地震で大破し、現在では石碑と本丸井戸跡が残るのみとなっています。

ちょっと足を延ばすと…　名古屋市

- ●東南海地震の碑
- ●雲心寺(慰霊碑)
- ●浜田南公園(伊勢湾台風殉難者慰霊之碑)

などもあります

東南海地震の碑は、南区にあります。航空機製作所の工場において、昭和19年(1944)昭和東南海地震の際に犠牲となった方々を慰霊するために建立されたものです。

雲心寺(震災弔魂碑)は、熟田区にあり、明治24年(1891)濃尾地震の際に、尾頭橋近くにあった紡績工場で被災した方々を弔うために建立されたものです。

浜田南公園(伊勢湾台風殉難者慰霊之碑)は、南区にあります。この碑は昭和34年(1959)建てられたものです。この碑は、水が引いた後、付近一帯から拾い上げられた遺品の雨ぐつが積まれていた“くつ塚”があった場所に建てられた、といわれています。

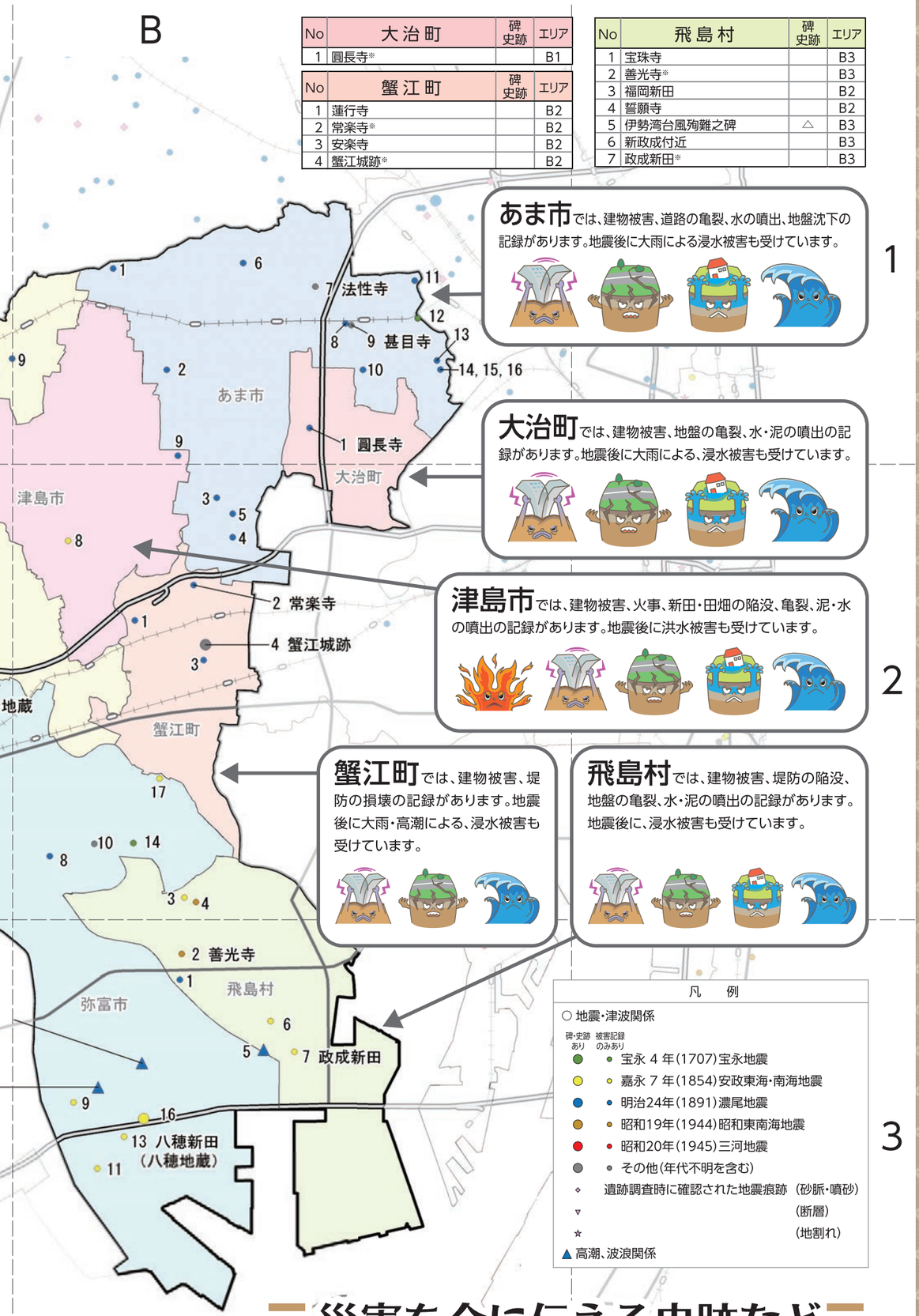
ちょっと足を延ばすと…　清須市

- ●清洲公園(濃尾地震の碑)

などもあります

清洲は、明治24年(1891)濃尾地震において大きな被害を受けており、ほとんどの家が倒壊しています。この碑には、当地区において亡くなられた方々が記されており、慰霊のために建てられたものと思われます。

○地震・津波関係　●宝永4年(1707)宝永地震　●昭和19年(1944)昭和東南海地震　●嘉永7年(1854)安政東海・南海地震　●昭和20年(1945)三河地震　●明治24年(1891)濃尾地震　●その他(年代不明を含む)　▲高潮、波浪関係



No	大治町	碑史跡	エリア
1	圓長寺※		B1

No	蟹江町	碑史跡	エリア
1	蓮行寺		B2
2	常楽寺※		B2
3	安楽寺		B2
4	蟹江城跡※		B2

No	飛島村	碑史跡	エリア
1	宝珠寺		B3
2	善光寺※		B3
3	福岡新田		B2
4	誓願寺		B2
5	伊勢湾台風殉難之碑	△	B3
6	新政成付近		B3
7	政成新田※		B3

じわれん

あま市では、建物被害、道路の亀裂、水の噴出、地盤沈下の記録があります。地震後に大雨による浸水被害も受けています。

1

大治町では、建物被害、地盤の亀裂、水・泥の噴出の記録があります。地震後に大雨による、浸水被害も受けています。

津島市では、建物被害、火事、新田・田畑の陥没、亀裂、泥・水の噴出の記録があります。地震後に洪水被害も受けています。

2

ゆらすん

蟹江町では、建物被害、堤防の損壊の記録があります。地震後に大雨・高潮による、浸水被害も受けています。

飛島村では、建物被害、堤防の陥没、地盤の亀裂、水・泥の噴出の記録があります。地震後に、浸水被害も受けています。

3

災害を今に伝える史跡など

※この地図は、主に市町村誌や体験談等を参考に、地震に関する碑・史跡や、被害記録がある地点をプロットしたものです。

ひのこん

こんな聞き取りもあります

昭和19年(1944)昭和東南海地震のあとに、津島高校地学部の方々が聞き取りをした際には、

- 「グラウンドに突然地割れが走り、そこから水と砂が入り交って噴き上げた」
- 「乾ききった田んぼにどこからともなく水が湧いてきて、ズブズブと底なし沼のような状態になった」
- 「畑につないであった牛がモーモーと鳴き叫ぶので、後ろを振り返ると牛が首のあたりまで沈んでいた」
- 「地震とともに水が空高く噴き上げ、何本も"砂の柱"が立った」

などの証言があったようです。

先人の声を聞き活かしていくことが大切なのじゃ

減斎（げんさい）さん
昔の地震のことを、とても詳しく知っているおじいさん。

地震時の状況のいくつか（体験談より）

…電気がパッと消えて、ガラガラ、家のガラス戸は全部割れてしまった。戸がばっしゃんばしゃんと倒れてからすがガラガラ、出て行くにも出ていけない。…（三河地震：津島市）

…二つのことを見た。一つは隣の門が南北にゆれ今にも倒れそうで二、三度ゆれて、もう倒れないと思った時南へゆっくりと倒れた。もう一つは今日のように家はあまり多くなかったので二、三キロ先が見通せる所に軍事工場があり、その工場は佐屋川の埋立地に建てられた工場で砂煙が上がった、と思うとそこに見えていた工場はなかった…（昭和東南海地震：弥富市）

…先生たちをもぐり込ませた机に片手をついて突っ立っていたものの、不気味なきしみ音とともに大きく揺れる校舎。ふくれ上がったと思うと見る間にひびが入り土煙をあげて落ちる壁、すさまじい音をたてて落ちてゆくガラス窓、まったく生きた心地もしない長い長い時間でした…（昭和東南海地震：津島市））

濃尾地震の「震災数え歌」

この数え歌は、地震の悲惨な状況を後世に伝え、二度と同じ悲劇を繰り返さないでほしいという思いを込めて作られたものです。岐阜県大垣市在住の方が親から聞いて覚えていたもので、「濃尾地震100年記念誌」に記録されました。

一つとせ　人々驚く大地震
美濃や尾張の哀れさは
即死と負傷人（けがにん）数知れず

二つとせ　夫婦も親子もあらばこそ
あれと言うまいぶきぶきと
一度に我が家が皆倒れ

三つとせ　見ても怖ろし土けむり
泣くのも哀れな人々が
助けておくれと呼び立てる

四つとせ　よいよに逃げ出す間もあらず
残りし親子を助けんと
もどりて死ぬとは つゆ知らず

五つとせ　いかい柱に押さえられ
命の危ぶきその人は
やぶりて連れ出す人もある

六つとせ　向ふから火事じゃと騒ぎ出す
こなたで親子やつれあいや
倒れし我が家 ふせこまれ

七つとせ　何といたして助けよと
慌てるその間に我が家まで
どっと火の手が燃え上がる

八つとせ　焼けたに思えどよりつけず
目にみて親子やつれあいや
焼け死ぬその身の悲しさや

九つとせ　ここやかしこで炊き出しを
いたして難儀な人々を
神より食事を与えられ

十とせ　所どころへ病院が
出ばりて療治は無料なり
哀れな負傷人（けがにん）助け出す

※負傷人（けがにん）は、この数え歌の中での読み仮名です。

防災・減災のための ☑ 一口メモ

- □ 地域の被災傾向を知って、地震に備えましょう。
- □ 地域の地名の由来を知って、災害危険箇所を掴んでおきましょう。
- □ 先人の声（警鐘）に耳を傾けて、過去の地震の教訓を防災・減災行動に生かしましょう。
- □ 地震後の大雨、洪水、高潮などによって、複合災害が起きています。地震以外の災害にも注意しましょう。
- □ 現代の有益なサービス（緊急地震速報、地域のメールサービスなど）を利用して、落ち着いて行動しましょう。
- □ 地震の際の危険な箇所を知って、避難行動に生かしましょう。
- □ 被災時には、先ずは自分の身は自分で守りましょう。被災後は地域の方々と協力しましょう。

関連情報

- 歴史地震を調べる際には、図書館や、愛知県公文書館、名古屋市蓬左文庫、西尾市岩瀬文庫などの公開文庫が役立ちます。
- 地震の際の体験談がまとめられています。
  「地震体験記録集ー関東大震災・東南海地震・三河地震ー」（愛知県）
  「濃尾地震生き証人の記録」（愛知県）
  「東南海地震 三河地震 体験談集ー大地震に備えてー」（西尾市）など
  （愛知県図書館、名古屋市図書館などでご覧になれます）
- 愛知県では、県民の皆さまがインターネット上で簡単に大地震の際の自宅（木造）の様子の映像を観たり、地域の防災情報等を得たりすることができる「防災学習システム」を公開しています。
  http://www.quake-learning.pref.aichi.jp

この資料について
この資料は、「地域に残る地震の記録」などを知っていただき、地震をより身近に感じていただくことを通じて、県民の皆さまが防災・減災を考えていただくきっかけになれば、との思いから作成されたものです。
この資料を作成するにあたり、下記の方々のほか多くの方々のご協力・ご助言をいただきました。記して感謝の意を表します。

〈作成協力〉（敬称略）［歴史地震記録に学ぶ防災・減災ガイド委員会］委員長：武村 雅之　委員：加藤 規博　隈本 邦彦　栗田 暢之　近藤 ひろ子　佐藤 克彦　鈴木 康弘　都築 充雄　服部 俊之　廣井 悠　福和 伸夫　溝口 常俊　護 雅史　山中 佳子（50音順で記載）

歴史地震記録に関する情報を探しています。
この地域の過去の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などを探しています。ご存知の情報を下記までお知らせください。

発　行：愛知県防災局防災危機管理課　TEL:052-954-6191　FAX:052-954-6911　E-mail:bosai@pref.aichi.lg.jp

災害を今に伝える史跡など　飛島村

飛島村の被災状況

飛島村では、嘉永7年（1854）安政東海・南海地震の際に、建物被害、地割れ、海岸堤防の陥没が発生しています。翌年の暴風雨により新田への浸水被害を受けています。

明治24年（1891）濃尾地震では、地割れ、地下水・砂の噴出、堤防の陥没、建物被害を受けています。

昭和19年（1944）昭和東南海地震では建物の全壊被害が多くあり、村南部で被害が大きかったとされています。また、「川の底が盛り上がり、田んぼの面がまるで蛇がのた打つようにくねくねと動きまわり、水が噴き上がってき、水と一緒に魚が田んぼに打ち上げられた」との証言もあります。

昭和20年（1945）三河地震、昭和21年（1946）南海地震でも、村南部で建物被害があったとされています。

●▲ 政成新田（まさなりしんでん）

地図 B3

所在地:海部郡飛島村木場
交　通:近鉄名古屋線「近鉄蟹江」より南 約8km

政成新田は文政9年（1826）、当時の庄屋役であった大河内庄兵衛が自費をもって開墾したのが始まりです。文政年間（1818～1830）に開墾が成ったので「政成新田」と名付けられています。

この地では開拓後間もない嘉永7年（1854）安政東海・南海地震によって海岸堤防が破損し、翌年（安政2年（1855））の洪水によって堤防はほぼ流されてしまいました。これは翌年再墾されましたが、その後も水害と再墾を繰り返しています。

● 善光寺（ぜんこうじ）

地図 B3

所在地:海部郡飛島村元起
交　通:飛島公共交通バス「善光寺前」より北西 約150m

当初は瓦葺のお寺でしたが、台風災害や、昭和19年（1944）昭和東南海地震で倒れるなどの被害を受けたことから、昭和46年（1971）に4本柱を替え、屋根を銅版に葺替え今日に至っています。

災害を今に伝える史跡　伊勢湾台風編

海部地区においては、地震災害に加えて高潮・洪水災害が非常に多く記録されており、なかでも昭和34年（1959）の伊勢湾台風は甚大な被害を受けた忘れられない災害です。ここでは、伊勢湾台風にまつわる史跡の一部をご紹介します。

▲ 伊勢湾台風殉難之塔（いせわんたいふうじゅんなんのとう）

地図 B3

所在地:弥富市西末広町
交　通:弥富市コミュニティバス「西末広」より西 約800m

各地に建立されている伊勢湾台風の慰霊施設の中でも、ひときわ高い「伊勢湾台風殉難之塔」が弥富市に存在します。

頂上に青銅製観音像が安置され、両側に、明像（母親が流木の間から愛児を抱き上げ頬ずりして喜ぶ像）と暗像（父親が、青年に成長した変わり果てたわが子を自衛隊員の助けを得て収容している像）が彫塑してあります（「弥富市立歴史民俗資料館」の展示解説より抜粋）。

碑文には「とき昭和三十四年九月二十六日のよる　史上最大といわれた伊勢湾台風が異例の高潮を伴って当地方に来襲し　荒れすさぶ怒濤は瞬時に堤防を決潰させ多くの家屋家財を押し流し　あまつさえ弥富町住民三百二十二名の尊い人命を奪い去つた」と、被害の悲惨さが記され、続けて「ここに殉難者の御霊安かれと念じ　泥海の中で衣食に窮した生活八十余日に及ぶ大自然の猛威を吾々の心のいましめとして後世に語り継ぎ　全国及び海外の各地から寄せられた温い救援の好意を謝するため」と、塔の建設理由が記されています。

▲鍋田神明社（なべたしんめいしゃ）

地図 B3

所在地:弥富市鍋田町
交　通:弥富市コミュニティバス「鍋田」より南東 約1.3km

鍋田神明社は伊勢湾台風の10周年記念事業の一つとして、昭和44年（1969）に造営されました。当地には現在、「伊勢湾台風殉難之碑」（写真（上）右側の石碑）と「伊勢湾台風殉難者慰霊観音」（写真（上）左側の観音堂）があります。

「殉難之碑」碑文には「伊勢湾台風の犠牲となり給わりし人々のご冥福を祈り、鍋田干拓地の安全と繁栄、この地に居住されるすべての人々の真の幸福を祈る」旨が記載されており、亡くなった133人の氏名が刻まれています。

また「慰霊観音」には、観音像安置の経緯が記されています。観音像には犠牲者の慰霊と共に生存入植者の激励の意味も込められていること、犠牲者ゆかりの地の土を陶土に混ぜ、常滑市の陶芸作家に観音像製作を依頼したこと、観音像自体は昭和38年（1963）に贈られたが、十三回忌にあたりこの地に観音堂が建立されたこと、などが記されています。

その他の災害に関する表示　地盤沈下など

弥富市立図書館前には伊勢湾台風時の被災水位と、地盤沈下に関する観測値の表示、海抜0mの標高表示があります。これにより、当該地がゼロメートル地帯にあること、被災水位がかなりの高さにあることが分かります。

また海部地域を中心とした濃尾平野では、高度経済成長期を中心に広域的な地盤沈下が進行しています。最近では沈下が落ち着きつつありますが、地盤沈下によって津波・高潮等の水害に対する危険が高まっています。

弥富市図書館前の被災水位表示板

○地震・津波関係
●宝永４年（1707）宝永地震
●昭和19年（1944）昭和東南海地震
●嘉永７年（1854）安政東海・南海地震
●昭和20年（1945）三河地震
●明治24年（1891）濃尾地震
●その他（年代不明を含む）
▲高潮、波浪関係

愛知県における主な被害地震と気象災害

時　代	愛知県の主な被害地震（■は地域での影響が大きかったもの）	主なできごとと気象災害等
奈　良	和銅8年［霊亀元年］（715）5月、三河・遠江に地震。三河東部では、正倉（穀物や財物を保管する倉庫）の破壊、民家の埋没等の被害あり。	(694)藤原京に遷都、(710)平城京に遷都 (729)長屋王の変、(740)藤原広嗣の乱(北九州)、恭仁京(京都)に遷都 (744)難波宮(大阪)に遷都、紫香楽宮(滋賀)に遷都→平城京(京都)に遷都→(794)平安京(京都)に遷都
平　安	嘉保3年［永長元年］（1096）11月、永長の東海地震。震源地は熊野灘沖。東海道沿岸では津波の被害あり。 **保安5年［天治元年］（1124）2月、尾張を震源とする地震。**海東郡（海部地域）の甚目寺が地震で破壊。	(1083)後三年の役(～1087) (1124)中尊寺金色堂建立 (1185)屋島の合戦、壇の浦の戦い
鎌　倉	―	(1192)源頼朝、征夷大将軍になる
室町(南北朝)	―	(1333)鎌倉幕府滅亡、建武の新政
室　町（戦国）	明応7年（1498）6月、三河、強震。豊川の河流が変化。 明応7年（1498）8月、明応の東海地震。東海道地方に激震。紀伊半島から房総半島で大津波により大災害。浜名湖が外海とつながり（今切）、安濃津が陥没し海になったといわれている。 **永正7年（1510）8月、尾張、三河に地震。**定光寺（瀬戸市）で本堂大破。津波発生（高潮の可能性もある）。	(1467)応仁の乱おこる、(1493)明応の政変、(1497)大雨で豊川が大洪水 (1510)三浦の乱
安土・桃山	**天正13年（1586）11月、天正地震。**近畿から東海道にかけて大地震。家屋の全半壊400戸、死傷者多数に及ぶ。真清田神社（一宮市）の楼門、回廊、社殿などが全半壊、岡崎城が破損。法性寺（あま市）なども倒壊。津島では大地震による田畑の陥没で約96ヘクタールが永荒地になる被害あり。長島城（桑名市）も倒壊。 文禄5年［慶長元年］（1596）閏7月、慶長伊予地震、慶長豊後地震、慶長伏見地震。尾張で強震。津波発生。	(1582)本能寺の変、山崎の戦い、(1583)賤ヶ岳の戦い、(1584)小牧・長久手の戦い (1586)大雨で木曽川が大洪水。河道が変化。尾張・美濃の沿岸地域で大水害 (1590)豊臣秀吉が天下統一 (1592)文禄の役(～1596)、(1597)慶長の役(～1598)、(1600)関ヶ原の戦い
江　戸	慶長9年（1605）12月、慶長地震。房総沖と南海道沖に殆ど同時に大地震。津波は犬吠岬から九州に及び、各地で甚大な被害を受けた。片浜の舟も被害あり。 寛文2年（1662）5月、寛文の近江・若狭地震。近畿・東海地方大地震。家屋、人畜の被害甚大。犬山城石垣破損。田原方面の民家、田畑、河川等の被害も大きかった模様。 寛文6年（1666）4月、尾張・知多半島に津波が来襲し、新田を破壊。ただし、地震の記事がないため、地震津波か高潮かは不明。 寛文9年（1669）6月、尾張で地震。名古屋城の石垣崩れる。 延宝5年（1677）10月、延宝の房総沖地震。関東南部に地震があり、津波があった。震源は磐城沖。尾張にも津波があったといわれるが詳細不明。 貞享2年（1685）3月、三河渥美郡に大地震があり、山崩れ、家屋倒壊あり。人畜多数が死亡。 貞享3年（1686）8月、三河・遠江で強震。震源地は渥美半島の北東端、または遠州灘。田原では、田原城の櫓、武家屋敷、町家等が破損し、死者があった。 元禄16年（1703）11月、元禄の関東地震。関東・東海地方に大地震。津波により、渥美では死者が多く、船、網等が流失。知多でも人家の倒壊、流失多数。 **宝永4年（1707）10月、宝永地震。**津波、山崩れあり。人馬多数死亡。田畑に海水入る。町家、寺社、土蔵、堤防など破壊、橋が落ちる。地割れ、泥水噴出。 享保3年（1718）7月、信濃・三河・遠江・山城の諸国で強震。三河吉田（豊橋市）では、被害の出たところがあった。 **享保16年（1731）10月、大地震あり、**荷之上、五之三村（弥富市）辺の田地から砂を吹く。刈谷で御城の塀が倒れる。 **享和2年（1802）10月、尾張で強震。**名古屋城本町門の石垣崩壊。本町西の松が倒れ、高壁が崩れ、堀に落込む。海東郡（海部地域）では、地割れして砂を吹出す。 文政2年（1819）6月、伊勢・美濃・近江・尾張に強い地震。震源地は近江・琵琶湖東岸。名古屋城の石垣がところどころ破損。城下ではところどころ土塀、築地が崩れ、寺院の門の倒れたものがあった。法花寺町常徳寺の門が崩れ、八事興正寺の塔損傷。石灯ろう・墓石の転倒回転したもの多い。葉栗郡（一宮市周辺）でも被害あり。 **嘉永7年［安政元年］（1854）6月、安政の伊賀地震。**尾張・津島では、牛頭天王神事の最中に大地震がおこり、市中は破損し、道路上、船中ともに負傷者が多く出た。 **嘉永7年［安政元年］（1854）11月、東海・近畿・四国地方にわたる大地震（安政東海地震・安政南海地震）。**四日の地震の震源地は遠州灘東部、五日の地震の震源地は南海道沖。伊勢湾沿岸・三河湾沿岸・渥美半島の遠州灘沿岸で津波被害を受ける。多数の家屋が倒壊。城門・櫓・石垣・土蔵等大破。城下の侍屋敷・町家・塀の半壊破損多数。堤防等陥没した所があり。山崩れもあった。道路はところどころ地割れを生じて泥を吹き出した。山からの大石の落下があった。矢作の橋柱が傾き、洪水のため流れ落ちた。海岸では津波により被害大。池決壊。	(1603)徳川家康、征夷大将軍となる (1605)大雨・洪水で尾張・三河ほかで被害 (1614)大坂冬の陣、(1615)大坂夏の陣 (1650)水害。大雨で木曽・長良・揖斐の三川が大出水し各所で破堤〈大寅の洪水〉、(1651)由井正雪の乱、 (1657)明暦の大火 (1664)水害。大雨で矢作川の堤防が挙母村で破堤 (1666)大雨で庄内川が大出水し、尾張各所の田畑が水害 (1674)暴風雨。木曽川の洪水で尾張・美濃大水害〈小寅の洪水〉 (1678)暴風雨、洪水で尾張藩領内の田畑・堤防・家屋に被害 (1687)水害。大雨で庄内川が出水 (1701)大雨で庄内川・矢田川・天白川・矢作川ほかで出水し大水害。渥美では新田の堤防が破堤、(1702)暴風雨で佐屋川水系、天白川の堤防が破堤、(1703)暴風雨で洪水。渥美の新田堤防が決壊 (1706)大雨で豊川がはんらん。庄内川の堤防が破堤、(1707)富士山噴火、(1708)暴風雨で東三河の河川は出水。三河湾・伊勢湾で高潮 (1716)享保の改革はじまる(～1745)、(1718)暴風雨で、渥美湾に高潮発生 (1722)暴風雨で尾張・三河は激甚災害。伊勢湾・渥美湾で高潮 (1731)暴風雨で矢作川堤防が挙母村で破堤、(1732)享保の大飢饉 (1767)大雨で矢田川が破提し、流路が変化〈亥年の洪水〉 (1782)天明の大飢饉(～1787)、(1795)暴風雨で矢作川が出水〈合歓の木切れ〉、(1801)大雨で菅生川・青木川・矢作川の堤防決壊 (1802)暴風雨。伊勢湾沿岸で高潮。岡崎・額田で水害。三河吉田でも被害 (1819)名古屋とその周辺に連日雷雨。落雷によって各地に火災発生、 (1825)異国船打払令を発す (1821・1822)大雨で矢作川が出水。挙母村で破堤、(1823)大雨で矢作川が出水、(1833)天保の大飢饉 (1853)ペリー浦賀に来る (1852)大雨で矢作川が出水。額田郡・幡豆郡で破堤〈天白切れ〉、(1853)大雨で庄内川が出水。東春日井郡で破堤 (1854)日米和親条約締結、大雨で庄内川が出水。東春日井郡で破堤 (1855)暴風雨で尾張・三河で洪水。庄内川・矢田川・新川・天白川・大高川・矢作川の堤防が決壊しはんらん。河和では古布小谷の川が破堤。海西郡では新田が破堤。矢作川下流の新田でも破堤。伊勢湾・渥美湾で高潮。沿岸の新田堤防や海岸堤防が決壊。下田で日米和親条約批准 (1856)大雨で庄内川が出水。東春日井郡で破堤 (1857)大雨で豊川・庄内川が出水 (1858)日米修好通商条約調印、安政の大獄(～1859)、(1860)桜田門外の変、(1862)坂下門外の変
明　治	**明治24年（1891）10月、濃尾地震。**震源地は揖斐川上流域。東海・北陸・近畿地方東部、特に美濃西部から尾張北西部にかけて記録的な大被害。家屋の倒壊、死傷者多数。山崩れ、陥没、地割れ、噴砂等の地変が多く見られた。	(1868)丹羽郡入鹿池堤防の決壊〈明治元年の入鹿切れ〉、(1882)菅生川(乙川)の決壊はんらん〈三島切れ〉、(1890)エルトゥールル号事件、 (1891)暴風雨で乙川・巴川の橋が流失・山くずれなど多数。矢田川などで堤防破損、(1891-1892)尾張で大雪、(1894)日清戦争はじまる
大　正	大正12年（1923）9月、関東地震。震源地は相模湾辺り。東京を中心に関東地方南部に大被害。壁が落ちた家、非住家の倒壊、煙突の倒壊、石碑・灯籠等の倒壊が、豊橋、新城、瀬戸、岩倉、刈谷等であり。	(1923)知多郡・東春日井郡でたつまき。台風による暴風雨。名古屋港で船の流失、堀川・新堀川で木材の流失、熱田で家屋浸水、愛知郡で山くずれ
昭　和	**昭和19年（1944）12月、東南海地震。**津波あり。被害は静岡・愛知・岐阜・三重で多かった。死傷者、家屋の全半壊・流失多数。沖積地・埋立地で被害大。地割れ、土砂と水の噴出、不等沈下あり。道路や橋、地下埋設管の被害もあり。堤防の損壊、海岸堤防の崩壊あり。井戸に汚濁、水位変化もあり。 **昭和20年（1945）1月、三河地震。**震源地は渥美湾。矢作川下流域の幡豆（西尾市）・碧海郡（西三河地域 西部）方面を中心に大被害が集中。死者、住家全壊多数。土地の隆起・沈降、小津波もあり。 **昭和21年（1946）12月、南海地震。**震源地は紀伊半島沖。津波あり。被害は中部地方から九州にまで及ぶ。死傷者、家屋の全半壊、流失、焼失多数。	(1934)室戸台風、(1941)太平洋戦争はじまる(～1945) (1945)原爆投下・ポツダム宣言受諾、枕崎台風、阿久根台風などにより、家屋倒壊、堤防決壊、浸水被害。尾張部で大積雪 (1947)カスリーン台風ほかで浸水被害、(1950)ジェーン台風、(1954)洞爺丸台風、(1958)狩野川台風、(1959)伊勢湾台風

＊年表内の「月」は旧暦で記載。　＊ 気象災害については、「愛知県の主な被害地震」の欄に記載した地震直近のものを記載。